

2月の園生活は2週目から3週目に入ります。

毎日にこどもたちの意識の変化が見られます。特に年長児たちにとって目立ちます。就学と言う喜びと卒園と言う別れを知るによって、気持ちが複雑になって来ております。これから益々の傾向が感じられるでしょう。

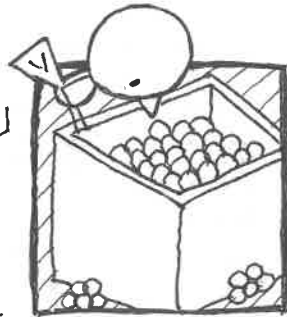
一日一日を大切にしていきたいです。

■ “ありがとう さようなら とどろき ♪ ひつじのねがははねこね ♪ …”と年長児たちの唄声が廊下に流れて来るようになって来ました。

■ コロナ対策として、年長児のハーモニカと年中児の鍵盤ハーモニカの発表を控える事としました。聞いていただく、その育ちが分かって頂けるのでとても残念です。

大きな紙に書かれた歌詞の文字ひとつひとつを目で追いながら、その意味を噛みしめるのが練習です。

■ 玄関での観察からさうひつじです。最近の「けはん」は昔と違って、布一枚ではなく厚手になっております。靴箱に入れる時の苦勞を考慮してください。「けはん」は「腕ぬき」と同じ一枚布で十分ですが!



その唄声を聞きながら、ひとりひとりの2年前と3年前のようすを想い浮かべると胸が熱くなります。

3月の習字はたき入まじりです。

つぼみのおひだちの園生活は、そろそろ一年になります。

正に4月から入ってくる新しいおひだちのお手本になること間違いなしです。

大きな育ちを観せてくれております。

スタッフたちの喜びをひとしおです。

自分の席にしっかりと座っていられます。そして、教師の話しをしっかりと聞くことができます。

自給的の小さな巨人たちここにあり。です。

(心の育ちシリーズ)

面白がるの大切さ

疑問を持つことは、人生を面白くする上で欠かせない要素である。

それぞれ世の中には不思議なことが沢山あるのに、疑問を持たなければそれらを不思議だと感じることも出来ない。

「地球は丸いのになぜ南半球の人たちは落ちないのか」とか「羽があるのになぜ笑鳥は空を飛べないのか」とか、こんな疑問は大人になると消えてしまいが、大人になって抱き続けた人が「学者」になったり、ずっと夢をあきらめずに追いかけていたりするのかも知れない。

こどもの頃、イソップ童話の「ウサギとカメ」を読んで、「なぜ野原を馬区けめるウサギと水中を泳ぐカメが競争なんかしたんだろう?」と疑問を持った少年は、大人になって加藤諦三という著名な心理学者になり、その疑問に答えている。

「疑問が大事」とは言え、それには二種類あるように思える。

一つは、たとえば「なんで古文を勉強しなくてはいけないのか」とか、「数学の方程式なんて要らないんじゃないか」と言える、嫌な事を拒否する為の疑問である。

好きな事だけをやりたい人は、この疑問を抱きやすいが、結局自分の好きな事を見つけれなかったりする。

もう一つは、冒頭に述べた「人生を面白くする疑問」である。それは大方、好奇心から発せられる。好奇心を持ってさまざまな世の中の不思議に疑問を抱くと、何事も面白がれて、楽しい人生になるのではないだろうか。

その意味では本屋さんには面白がる人たちが集う「知的アミューズメントパーク」だろう。

このように言っているのは宮崎中央新聞 魂の編集長水谷とらひとさんです。